

2 水稻粳新品種「ふくみらい(福島1号)」の普及

福島県農業試験場 種芸部
平成9～12年 水稻奨励品種決定調査成績書
分類コード 01-01-01000000

部門名 水稻—水稻—品種

担当者 水稻奨励品種決定調査担当者

I 新技術の解説

1 要旨

(1) 特性概要

「ふくみらい(福島1号)」は、出穂期が「ひとめぼれ」より2日程度遅く、「コシヒカリ」より6日程度早い“中生の晩”である。草型は、稈長がやや短く、穂数が「ひとめぼれ」並～やや少ない偏穂数型である。耐倒伏性は「ひとめぼれ」より明らかに優る。

(2) 収量

「ふくみらい(福島1号)」の収量は、「コシヒカリ」よりやや優り、「ひとめぼれ」並である。

(3) 品質

「ふくみらい(福島1号)」は、会津支場では「ひとめぼれ」や「コシヒカリ」並に良質である。しかし、本場および相馬支場では年次によって乳白粒の発生がみられたため、「ひとめぼれ」よりやや劣る。

2 期待される効果

(1) 本県オリジナル品種とし、本県産米のイメージ向上に活用できる。

(2) 出穂期が「中生の晩」でひとめぼれとコシヒカリの間に相当することから、大規模稲作農家や受託組織、共同乾燥調整施設における収穫作業の競合分散ができる。さらに、移植栽培と直播栽培の組合せによる収穫作業期間の拡大が期待できる。

(3) 平坦部および山沿いの中生品種(初星、チヨニシキ等)の整理・統合による良質米の生産に寄与できる。

3 適用範囲

県内の「農林21号」、「チヨニシキ」の作付け地帯および「初星」で品質低下が問題となる平坦部を対象とする。普及見込み面積は平成15年に1000haである。

4 普及上の留意点

施肥量は「チヨニシキ」に準ずる。また、玄米品質の低下や蛋白質含量の高まりを避けるために、追肥は幼穂形成期を基本とし、減数分裂期以降の追肥は行わない。